

突撃!「極意」伝承道場!!

小林 稔先生(須坂市立相森中学校)の講座を訪問させていただきました。



受講者の感想から

- ★対象となる生徒によって効果的な指導法や場の設定は変わることによって改めて気づくことができました。器械運動の指導だけでなく、別単元においても日頃から勉強を重ねて、自分の中に多くの引き出しを用意して授業に臨まなければいけないと思いました。自校以外の先生方と学ぶことで、新たな刺激がありました。
- ★指導の一つ一つに根拠があり、どうしてその指導が必要なのかということが明確でした。授業を受ける側も安心できるなと感じました。第2回の「極意」伝承道場では、実際に模擬授業をして、お互いの授業を自分なりにアレンジしてやってみるということをしました。その時に、分かりやすい授業にするために、どんな言葉で指示をすれば良いのか、自分の指導を客観的に見直すことができました。
- ★昨年、自分もマット運動、跳び箱の授業を行ったのですが、前回りに終始してしまったというような感じがしました。教えていただいたこと(大きなゆりかご→小さなゆりかごの動き)を実践し、前転、そしてよりダイナミックな前転へと次の授業ではつなげていけるという自信をもてました。

10月4日(月)に相森中学校体育館で行われた小林稔先生の「極意」伝承道場に参加させていただきました。

この日は、「授業ネタを体験&試案してみよう!」ということで、前転・後転ができるようになる**マット運動**、切り返し技・開脚跳びができるようになる**跳び箱運動**について、小林先生や参加者の実演を交え、教材研究を深めました。**準備運動の内容、子どもをやる気にさせる声かけや授業展開、評価の仕方等**について提案や意見交換をしました。

マット運動では「ゆりかご」の動きや大きさについて考え、そこから前回りや前転、開脚前転等につなげ、子どもへの賞賛や承認活動、二人同時に行う課題活動、子どもの意欲を引き出す支援策を共有しました。また、跳び箱では、助走、踏切、空中姿勢、着手、着地の感覚をつかむための準備運動について、跳び箱の実演では、着手時

保健^{体育}授業^構想

の手や肩の角度、着地の感覚をつかませる補助支援の仕方について学びました。

子どもたちが体育の授業を通して「自己実現」できるように、準備運動、感覚運動、ドリル練習などの教材研究の大切さを確かめました。また、受講者もマット運動や跳び箱運動での自身の取り組みを紹介し合い、全員で共有しました。

指導者の小林先生は、「熱心に聴いていただき、ありがとうございます」と受講の先生方の熱心な取組に感謝の気持ちを述べています。

